

プレスリリース【超高静圧の小型薄型DC軸流ファン 発表】 2010/10/13

こんな軸流ファン見たことない！！小型薄型クラスで、最大静圧244Pa、回転数8400rpmを誇るDC軸流ファン・モーターがついに登場。ただ単に風量が多いだけではなく、風をグーッとどこまでも押し出す力（静圧）が圧倒的に強い小型モンスター・ファン。

***** プレスリリース内容 *****

熱対策ソリューションベンダーの株式会社ワイドワーク（所在地：東京都千代田区、代表取締役 杉山聡司）は、小型薄型にもかかわらず、最大静圧244Paを誇る、大きさが60mm角、厚さ25mmのDC軸流ファンモーターを発表した。筐体内部が電子部品やケーブル、電源などで密集した所にエアフローを供給し、冷却性を高めることができる。今回発表する超高静圧DC軸流ファンの詳細は次の通りである。

【製品特徴】

今回発表したワイドワークのDC軸流ファンは、最大静圧244Paを実現しているながら、騒音値も48.9デシベルを可能にした。最大回転数は、8400rpm。除電器や高性能サーバー、通信機器、筐体内部の密集箇所の発熱対策、ヒートシンクのフィン冷却、高乾燥力・高脱臭力を要求する環境関連産業機器、などの用途を想定している。

【なぜ、静圧が高いと使い勝手が良いのか？】

我が国のOA機器や産業機器は、高い技術力の下、より精密で小型コンパクト化・高機能化しており高性能化にとどまるどころがない。その反面、各電子部品が高集積化し、筐体内部が高密度化することで、必然的に筐体の内部は熱を持つことになり、発熱対策が急務となっている。

従来の一般的なDCファン・モーターは、『風量』に着目されがちであったが

当社の経験則からいえば、日本国内のエンジニアはいち早く『静圧』に目をつけており、『静圧』の重要性を認識していた。静圧が高い軸流ファンは、風を押し出す力が強いということなので、筐体内部にこもりがちな熱溜まりを押し出してくれる。風量が確保できるだけでは、熱溜まりを押し出すことができず、ただ単に熱溜まりを撒き散らすことになりかねないので、高静圧が要求されるのである。

また、軸流ファンで『静圧』を高めるには、インペラの形状やモーターのバランスなど総合力が求められ、なおかつファン本体が異常に動き回る（ダンシング）や振動ぶれを低減することも求められるので、総合的にバランスが取れた仕上がりとなっている。

サンプル受注開始しました。